桜井勉による予想天気について

【来歴】

台湾の新竹州滞在中の桜井勉（1843～1931 年）から豊岡市出石町在住の島村賛宛の表書のある封筒中に残された資料の一つである。

【大きさ】

タテ 16.4cm×ヨコ 24.3cm

【年代】

宛て先は「兵庫県但州出石町/島村賛殿」で、封筒裏書の差出人は「台湾新竹桜井勉」とある。消印に「41・1・14」「台北」等の文字が確認されることから 1908 年（明治 41 年）1 月に台湾の新竹州に滞在していた桜井勉から発信されたことが確認できる。

封筒には他の資料も混在していることから、この資料は消印の年月に作成されたものとは断定できないものの、大阪朝日新聞の発行された 1889 年（明治 22）年以降、かつ、島村賛が死去した 1909 年（明治 42 年）3 月以前のものと推測される。

【内容】

桜井勉は豊岡市出石町出身で、内務省地理局長などを歴任した。桜井は日本の天気予報開始に尽力した人物の一人である。

この資料は島村家関係者が、出石の天気について桜井へ照会をかけたことに対する、桜井からの回答である。このように、桜井自身が独自に天気を予想した資料は豊岡市内ではほかに残されていない。

文中の「大阪朝日」とは大阪朝日新聞を指すとみられ、同紙に掲載されていた各地の天気予報を参考に、桜井が自ら持つ知識（文中では「気象学の方法」）から、出石の天気を予想したものとみられる。

大阪朝日新聞にどの地点の予報が掲載されていたかは未確認であり、桜井の予想が的中したかどうかは不明である。

大阪朝日新聞が台湾で購読できたかどうかについても疑問が残り、日本本土で作成されたのち他の文書に混ざって当該封筒に入れられた可能性も残る。

当時のごく限られたデータから特定地点の天気をピンポイントで的中させることは現実的には難しいが、回答を求められた桜井が、自身のプライドにかけて出石の天気を半ば強引に推測したものともみられ、桜井の人柄を垣間見ることができる資料である。

＜参考文献＞

気象庁編（1975）：『気象百年史』、日本気象学会

作成：豊岡市観光文化部文化・スポーツ振興課文化財室